



三月議会報告

平成二十五年第一回我孫子市議会定例会が三月二十二日(金)に閉会しました。平成二十五年の一般会計当初予算は対前年度比四・一パーセント増の三百六十三億八千万円で、この一般会計予算に国民健康保険特別会計や公共下水道特別会計など五つの特別会計を加えた予算合計(除く水道)は前年度に比べて二・六パーセント増の六百二十七億一千万円となりました。歳入における市税は五年前と比較してマイナス十二億五千三百円と年々減り続け、毎年臨時財政対策債など市債(借金)に頼らざるを得ない財政運営となつています。執行部が自ら定めた財政規律も守ることができず、年度末の一般会計の地方債残高はついに三百億円を超えてしまいました。東日本大震災の復旧・復興費の需要が大きいことは理解しますが、なお一層の行財政改革の徹底、事業の絞り込みが必要になっていきます。

主な争点は、平成二十五年一般会計予算に計上された①東日本大震災からの復興、②放射能対策、③若い世代の定住化策、促進などの諸施策について予算審査特別委員会が活発な議論を行われました。しかし、定例市議会の半ばに白山中で発覚した二十五年度高校入試の可否の判定要素となる調査書(内申書)の記載ミス問題が大きな争点としてクローズアップされました。

また、三月議会初日、正副議長選挙が行われ、議長に茅野理氏(三十八歳)、副議長に内田美恵子氏(六十二歳)が選ばれました。なお、議長選では我が会派の早川真氏(五期・あびこ未来)と茅野理氏(三期・清風会)が十二票対十二票の同数となり、地方自治法の定めにより、「くじ引き」で議長が選任されました。

■三月議会の総務企画常任委員会における印南 宏の質問と提言

○男女共同参画に関する事務を市民生活部から総務部に移管することについて!

印南：女性働きやすい環境というのには、「子育てや介護」に忙しい女性のためだけでなく、若者、高齢者、障がい者、外国人などの多様な方々が働きやすい環境でもある。ダイバーシティ(多様性)の考え方で推進していくべきである。

○我孫子市地域防災計画のあり方!

印南：地域防災計画を単なる文で終わらせずに、市民にとつて真に役に立つ防災計画にしなければならぬ。自主防災組織の組織化の推進、直下型大地震を想定した防災訓練の実施、地域防災計画の市民への周知策の徹底など提案しました。

○空き家対策・管理条例の制定を!

印南：超高齢化社会を迎え、市

内で空き家が増えることが予想される。空き家管理条例の制定を促すとともに、まちづくりに空き家を活用する施策を提案しました。

その他、人事制度の改革(再任用制度の導入)、ラスパイレスについて、知事選挙の公報のあり方など総務企画常任委員会に関する所管事項について積極的に質問と提言を行いました。

■高校入試のための調査書(内申書)記載ミス問題について

三月定例市議会の開催中、白山中で発覚した二十五年度高校入試の可否の判定要素となる調査書(内申書)に記載ミスがあった問題が今議会で大きな争点となりました。

そもそも、高校入試の調査書は学校現場として最も大切且慎重に扱わなければならぬ重要な書類です。その書類を作成する過程において、再チェックするシステムが存在せず、今日まで学校現場の秘密事項として事務処理をされています。疑う人間が行っていない資料づくりから、もしかすると過去にもこのようなミスが存在していたのではないか、容易に推測されまします。あつてはならない出来事、が起きています。現在の教育現場、今回の事件を契機に、なぜこのような記載ミスが起こったのか、その原因の徹底調査、そして二度とこのような構築を教育委員会全体の新しい問題として早急に作り上げ


**■市内中学校の入試用調査書の記載ミスに対する徹底調査及び再発防止を求める決議**

今般、市内中学校において入学試験における調査書の記載ミスがあった。またその後、新たな記載ミスが他の中学校でも発覚した。これらの誤りは、子どもたちの進路に大きな影響を及ぼす可能性があり、教育現場としてはあつてはならないと言わざるを得ない。今回の対象となった子どもとその保護者の方々の心痛は察するに余りある。これまでの教育関係者による一連の不祥事に続き、今回のこの事件は我孫子市の教育に対する市民の信頼を著しく損なうこととなった。市民の信頼を回復するため、我孫子市議会として二度とこのような事件を起こすことの無いよう教育委員会に以下の点を強く求める。

1. 調査書の記載ミスがなぜ起こったのか徹底的に調査すること
2. 二度と起こらないようにするため再発防止策を講じること

以上、決議する。

千葉県我孫子市議会



ていくことが責務であり、絶対条件となっております。我孫子市議会は最終日、左記の決議案を提出、本会議において全会一致で可決されました。

我孫子市教育委員会は今回の事件を経て、高校入試の際、提出する調査書(内申書)を生徒に事前開示することも一つの方法として検討を進めています。開示する内容は調査書に記載される各教科の五段階評価の点数のほか、部活動や生徒会活動の記録、英語や漢字、数学などの検定資格の有無などで、生徒との信頼関係を損なわないように生活態度などの担任の評価は除くことが考えられています。いずれにしても二度とこのような記載ミス等の問題を起ささないシステムを早急に構築する必要があります。

私は今回の事件を考える時、教育委員会の果たしてきた役割・責任の所在にも問題があったものと考えています。教育現場で起こっている諸問題に教育委員会は今までどのような対処してきたのか、教育委員会の責任と権限が中途半端になっていないのか、改めて教育委員会の位置付けを明確にし、改善していく必要があると考えています。

現在の教育行政は権限と責任が複雑且つ曖昧になってしまっています。算編成権を持つ首長から任命された三名、六名の委員からなる教育委員会ですが、この委員は教育に対する専門的な知識を必ずしも持ち合わせているわけではありません。また、非常勤であるので、実質的に教育行政を動かしているのは教育長を始めます。つまりは「選挙によって

て選ばれた首長(市長)と「素人集団である教育委員会」と「行政執行の責任者である教育長」の三者に責任と権限が分散されているのです。本来は教育が一方に偏り過ぎないように相互に監視・抑制しあうシステムが逆に教育行政を滞らせているとも見えます。ここにメスをいれないと根本的な解決にならないので、必要なか、教育委員会の改革が必要なので、今回の事件となつて現れたものと私は理解しています。

**【調査書(内申書)記載ミスの件数】**


- ・白山中学校 122名
- ・久寺家中学校 5名

(平成25年4月3日現在)

**【調査書(内申書)開示請求数】**

- ・我孫子中学校 14名
- ・湖北中学校 3名
- ・布佐中学校 5名
- ・湖北台中学校 9名
- ・久寺家中学校 14名

※白山中学校は257名全員に配布



**人口減少問題とホットスポット**

三月定例市議会でも、気になることの一つに人口減少問題があります。総務省の住民基本台帳・人口移動報告によると、二

〇一二年(平成二十四年)の千葉県の人口転出超過数は八千八百八十八人でした。これは、前年の減少人数の三千九百三十五人を大幅に上回る結果です。東日本大震災の影響によるホットスポット(放射線量の高い地域)の問題や液化ガスによる影響がこの転出超過数の大幅増加という最悪の結果を招いたと指摘されています。

我孫子市は転出超過数上位のワースト自治体の一つで、全国で第十一位の千九十六人の減少という厳しい結果が示されました。(ちなみに一位：市川市、二位：郡山市、三位：松戸市、四位：福島市、五位：いわき市、六位：浦安市と、千葉県と福島県が上位を占めている)人口の増減は大きく二つの要因に分けられます。一つは自然の増減。生まれた人と亡くなった人の増減です。我孫子市の自然増減要因では、約二百人の減でした。もう一つは社会的な要因による増減で、大規模マンションの建設や都市開発による人口の増減などです。我孫子市では、この社会的要因の観点で転出が転入を約九百人と上回ってしまっています。転出超過となった要因として、ホットスポットや放射性物質に加えて高濃度の放射線物質を含む焼却灰の一時保管場所・手賀沼下水道終末処理場問題を抱えるなどによる風評被害が影響したと指摘する声も多く出ています。私は単にホットスポット・放射能問題だけでなく、

**放射能対策・手賀沼終末処理場での焼却灰問題(市内各地で抗議集会開催)**

昨年十二月より始まった柏市、流山市、松戸市の手賀沼終末処理場への高濃度放射性物質を含んだ焼却灰の搬入が市中、市民による抗議集会が市内各地で開催されてきました。布佐から始まり、我孫子地区まで延べ四百名以上の市民が参加する全市民の運動へと広がっています。この運動の母体となつている「広域近隣住民連合」の市民の方々と私の会派(あびこ未来)の全員を含めた市議会議員有志が連携し、総務省の「公害等調整委員会」へ調停の申し立てもおこなっています。

四月十一日には第二回目の委員が開催され、搬入を決定した千葉県に対して、搬入停止等を求めたいと訴えています。このような活動や日々の焼却灰搬入状況など、詳しくは広域近隣住民連合のブログ(<http://ameblo.jp/abiko-osenbai-hantai>)をご覧ください。我孫子市議会としても、引き続き三市に対し、搬入停止を粘り強く、求めていきます。



四月九日、布佐中学校の入学式に出席した。今年の新生は七十八名、三クラス編成。卒業生と同じ人数が入学したことになり、生徒数が毎年のように減り続ける中で、かろうじて現状維持を保つことができた。中学校の入学式でいつも感じることは、真新しい制服に身を固めた新生たちが、まぶしく見えることである。子供から大人への最終ステージの始まり、新生は皆、適度の緊張と不安感の中にいる。しかし、これからの三年間で大きく変貌する。その期待感で、まぶしく見えるのかも知れない。新生を迎えた先生たちの横顔も光っている。教師としてのやりがいと責任感を強く感じて、このだろう。そこには教師という職業が聖職であることを物語るのがある。中学三年間は人生で最も多感な時期。また、大人となるための勉強をする期間である。大きく羽ばたいていくことを祈らずにはいられない。頑張り、布佐中生、君たちには未来がある。郷土の誇りを背負って大きく羽ばたけ！◆手賀沼花火大会は三月の第一土曜日。開催は八月三日の復活。昭和六十二年からは毎年八月、柏市、我孫子市などの共同で盛大に開催されてきた。約四十万人が集ま

る夏の風物詩として親しまれてきたが、二〇一一年の東日本大震災で近隣の花火大会が中止になった影響で中止になってしまった。昨年、放射能の除染を優先することができず、二年続けて中止になった経緯がある。今年、柏市がホットスポットで傷ついていたイメージを払拭するべく、柏市として四月から繰り広げている「WE LOVE PEACE」の目玉として手賀沼花火大会に力を入れて、盛大に執り行いたい。肝心の放射能問題が気になる。昨年十二月から始まった柏市・流山市・松戸市による手賀沼末端処理場の高濃度放射線物質を含んだ焼却灰の搬入が続いている。柏市として、この問題をどのように考えているのか、確認をしたい。新たな政権になって、最終処分場の建設に目途がつかない中、手賀沼末端処理場が半永久的な一時保管場所になってしまふ恐れはないのか、我孫子市側の心配は尽きない。◆この頃、東京に行くと街角の雰囲気、妙にバブルの頃に似ているような気がして「アベノミクス」とか「安倍・黒田相場」とか、噂し立てている。現実はどうも違ふように思える。活動は今と違ふ、頃の就職内定は、繁華街から自宅まで、夜の繁華街から自宅まで、タ

クシーで帰ることもできた。私はバブル時代に、これが、ほんの二十何年前のことか、また起ころうとしているのか、少し不安でならない。政治誘導で高・円安を進めているが「気持ちだけ」では、すぐに綻びが出てくるものと考え、現実の生活が豊かになつたという実感を持たない現代を考えると、あきらかに期待先行の上滑りのような現象なのだと理解している。また、就職内定率がこの二、三年連続して上昇し、超氷河期に薄日が差すようになったといわれているが、現実・実態はどうか。非正規の職業に就けなかった人、非正規の職業にしか就けなかった人も大勢いる。うまく会社に入れた人も、会社から何時社に入れた人も、会社から何時不要な人というレッテルを張られるのか、日々、怯えている人もいる。一日も早く景気回復が軌道に乗り、働く人々が暮らせる安全な社会への信頼が得られない。◆成田線の利用者減つている。市議会終了後、毎朝、成田線沿線各駅で、議会報告・ホットコミュニケーションといふので感じることは、年が経つにつれて、布佐駅や湖北駅を中心に、乗降客数が激減している。我孫子市の人口は現在十三万四千(二月一日現在)対前年度比、マイナス千三百二人と人口減少の一途である。その大部分は成田線沿線の人口減が影響している。

**印南 宏後援会**  
 〒270-1198 我孫子市日の出 1131  
 (日本電気労働組合我孫子支部内)  
 Tel 7184-2860  
**印南 宏 自宅**  
 布佐平和台 7-1-18  
 Tel 7189-1598  
 e-mail hiroinabiko@kca.biglobe.ne.jp  
 HP http://www7b.biglobe.ne.jp/~innami-hiroshi/  
 ブログ http://hiroshi4649.at.webry.info/



る。従って、我孫子市の人口減少を食い止めるには成田線の利便化が絶対条件である。利用しやすいダイヤの編成、特に本数、三十分一本あたりは、最低三本に一本、時間当たり、最低三本の成田線の本数の確保が必要である。その上で、若い世代の定住を促進すべく、まちの魅力の向上を促すべく、住宅の魅力を高める。子育てしやすい街づくり、早急な付加価値を付ける。諸施策の展開が望まれている。

**宏**